

江上の船

嵯峨天皇

一道の長江千里通ず

漫漫たる流水行船を漾あす

風帆遠く没す虚無の裡疑は是仙查の天上と欲

【作者】嵯峨天皇（七八六〜八四二年）第五二代の天皇。平安朝初期の漢詩人で書家。御名（ぎよめい）は神野（かみの）、第50

代桓武（かんむ）天皇の第二皇子として降誕された。幼時より聡明で読書を好み、博く経史（けいし）に通じ、詩文に長ぜられ、書芸にも精（くわ）しく、僧空海、橘逸勢（たちばなのはやなり）と共に三筆と称された。また仏道にも帰依（きえ）せよつて平安朝の制度文物（法律、学問、芸術、宗教）は備わった。御歳（おんとし）二四歳で即位され御在位十四年、皇位を淳和（じゆんな）天皇に譲られ、承和（じやうわ）九年七月十五日、五七歳で嵯峨院（今の覚寺）で崩御された。御陵は嵯峨山上陵（さかのやまのえのみささぎ 京都市右京区）

【語釈】*長江…（こ）では淀川 *行船…水上を行く船 *漾…水に浮かんだ船がゆれ動く

*風帆…風を受けてはらんだ帆 *虚無…なにもない（こ）では大空 *仙查…仙人の乗ったいかだ

【通釈】河陽（かや）離宮から眺めると淀川が遙か遠くまで続き、その広く豊かな水の流れに船がゆれ動きながら進んでいる。風を受けてはらんだ帆船が大空に消えてゆく光景は、仙人の乗りたいかだが、天に上つてゆくのではないかと思われる。